

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和07年10月07日

計画の名称	京都府内における鉄道との結節点におけるバリアフリー化の推進（防災・安全）											
計画の期間	平成28年度～令和02年度（5年間）											重点配分対象の該当
交付対象	京都府											
計画の目標	京都府域の鉄道との結節点においてバリアフリー化を推進し、子供から高齢者まで暮らしやすいまちづくりを支援する。											
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	4,123	A	4,123	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			定量的指標の現況値及び目標値		
	定量的指標の定義及び算定式			当初現況値	中間目標値	最終目標値
				(H26)	(H30末)	(R2末)
1	鉄道との結節点においてバリアフリー化を推進し、結節点利用人数（駅の乗降客数）を増やす。 関連する駅（亀岡駅及び八木駅）の乗降客数			21470人/日	21930人/日	22390人/日

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靭化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
土地区画整理事業の事業区域を有する2市(亀岡市、南丹市)と本整備計画策定主体である本府の区画整理主管課において相互に調整を行い、評価を実施	令和7年9月
事業効果の発現状況	
定量的指標に関する 交付対象事業の効果の発現状況	計画の成果目標としていた結節点利用人数(駅の乗降客数)については、新型コロナウイルス等の影響もあり、目標の達成には至りませんでした。しかし、「鉄道との結節点においてバリアフリー化を推進し、子どもから高齢者まで暮らしやすいまちづくりを支援」するという本計画の目標については、安全で安心して利用できる歩行空間を構築することにより、一定の効果が発現した。
定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況(必要に応じて記述)	<ul style="list-style-type: none"> A01-001、A01-003：亀岡駅北地区では、駅北広場および都市計画道路歩道のバリアフリー化を進めることで、南北連絡通路や駅北側バス停、保津川下り乗船場へのアクセス性が向上した。これにより、駅南側の混雑が緩和され、交通結節点としての機能強化が図られた。加えて、駅北側の利便性と安全性が高まり、地域の住環境の改善にもつながった。これらの整備は、地域住民のみならず、京都府立京都スタジアムの観客や観光客など、多様な利用者のニーズに対応するものとなっている。 A01-002：八木駅西地区では、駅自由通路の整備にあわせ駅前広場および都市計画道路歩道のバリアフリー化を進めることで、JR八木駅へのアクセス性が向上し、駅利用者の利便性が高まった。特に、駅西側からの動線が短縮されたことで、通勤・通学者の移動効率が改善された。また、歩行者動線の明確化と安全な通行空間の確保により、駅周辺の安全性が向上し、安心して利用できる環境が整備された。これらの整備により、地域住民の生活利便性の向上が図られた。
特記事項(今後の方針等)	
本計画の完了後も引き続き、社会資本整備総合交付金や個別補助制度を活用し、土地区画整理事業の実施と合わせた駅周辺での都市計画道路の整備やバリアフリー化を進め、子どもから高齢者まで暮らしやすいまちづくりを推進します。	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	22390		
	最終目標値	22390人/日	新型コロナウイルス等の影響により、駅の乗降客数が減少したため。
	最終実績値	15800人/日	